

資料、1

平成30年度 第6回 ライフステージ事例検討会 報告書	
日時	平成30年12月4日(火) 17時45分～19時20分
開催施設 参加者数	金沢大学 27名、福井大学 6名、金沢医科大学 6名、石川県立看護大学 5名、信州大学 6名、国立病院機構金沢医療センター 4名、石川県済生会金沢病院 3名、石川県立中央病院 12名、高岡市民病院 10名、市立砺波総合病院 3名、富山済生会富山病院 4名、富山済生会高岡病院 4名、諏訪赤十字病院 1名、長野赤十字病院 2名 欠席：飯田市立病院、富山県立中央病院 参加者なし：金沢市立病院、恵寿総合病院、黒部市民病院、厚生連高岡病院 計 93
テーマ	「余命が伝えられた人生の最終段階にある患者・家族への関わり」
発表者	金沢大学附属病院 がん専門看護師 佐伯千尋さん
<p>【意見交換内容】</p> <p>検討事項1,2について、自施設で現在行われている可能な対応、連携体制、スクリーニング実施状況について意見交換がなされた。</p> <p>【他施設からの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外来で不安などの表出があり支援の必要が検討される入院を予定している患者・家族の対応について「入院支援部」や「がん看護外来」「がん専門外来」など部署があり対応していることが紹介された。 ・外来一入院の一元化のため、病棟看護師が外来に出るなどし看護の継続が図られていることが紹介された。 ・病棟一外来で定期的にカンファレンスを行っていることが紹介された。 ・初回スクリーニングには、認定看護師または専門看護師が初めから関わる施設と患者と馴染みがある外来看護師が関わりそこから認定看護師、専門看護師につなぐという連携が紹介された。 ・入院後は緩和ケアチームがラウンドする中で、病棟看護師が困っていないか、患者・家族生活にしやすさ・ニーズの把握をし支援していることなどが紹介された。 	
	テーマ：「患者・家族の抱える苦痛・苦悩に早期に気づくには」